

全国の農業高校の生徒が和牛の飼育技術や研究成果を競う第9回和牛甲子園で、養老町祖父江の大垣養老高校が取組評価部門の審査委員特別賞を受賞した。牛の体調管理や発育を細かく分析し、高校生ならではの視点で改善を重ねた点が高く評価された。同校で関係者に活躍を報告した。(浜田悠)

大垣養老高が 審査委員特別賞



審査委員特別賞の受賞を喜ぶ生徒ら＝養老町祖父江、大垣養老高校

和牛甲子園「取組評価部門」

高校生の視点で改善、評価

大会は全国農業協同組合連合会(JA全農)が主催し、43校から過去最多の65頭が出展された。表彰は一回大会では最高位の総合

部門最優秀賞を獲得。今回で6年連続の入賞となった。

飼育を担当したのは、いずれも動物科学科2年の安田優斗さん(17)、松浦くるみさん(16)、三石姫雪さん(17)、牧本陸斗さん(16)。審査では、一般の農家では手が回りにくい牛の細かな変化に目を向け、高校生だからこそ可能な研究を積み重ねた点などが高く評価された。

大会に向けて、夏場の暑さ対策に力を入れた。牛舎内に扇風機を設置し、風量や角度、配置を何度も調整。牛の体温や飲水量などを測定できるセンサーを活用し、数値を基に飼料の配分を決めるなど、科学的な飼育管理を行った。

西美濃農業協同組合(JAにしみの)の玉井寛之組合長、JA全農岐阜の伊藤善紀副本部長が同校に祝福に訪れ、購入した出品牛の牛肉が贈呈された。生徒は

「放課後に発表の練習を重ね、チームで頑張ってきた成果を出せた」「来年はさらにレベルアップした取り組みをしたい」などと笑顔で話した。